

奈良の丘だより

横浜市立奈良の丘小学校



学校教育目標 9月号
笑顔いっぱい チャレンジいっぱい奈良の丘

- 自ら考え、進んで行動する子を育てます
- 互いに認め合い、高め合う子を育てます
- たくましく、共に生きる子を育てます

<http://www-local.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/naranooka/>

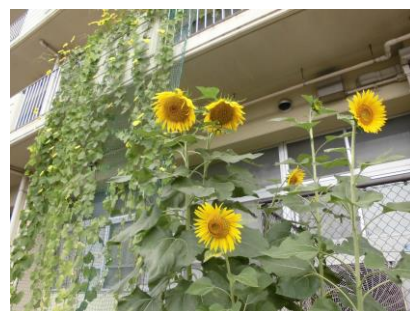
資質・能力を育むために

校長 岩崎 健治

夏休みが明け、暑さ厳しい中でも子どもたちが元気に登校してきました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響が心配される中、学校教育活動が順調にスタートできたことに感謝しています。

休みに入ると、すぐに連日の猛暑となりました。記録的な猛暑が続き、熱中症への最大級の警戒をするような内容も報道されました。また、線状降水帯による甚大な被害や大雨特別警報など、ここ数年、異常気象が続いており、報道では「今までにない」「記録的な」「過去最多」「危険な」などという言葉が連日のように並んでいます。

現代に生きる私たちは、昔の人に比べると、気象や気候変動について多くの知識や情報を簡単に手に入れられるようになりました。しかし、私たちが自然の猛威にうまく対応できているかということ、単純にそうとは言えないように思えます。人工衛星をはじめ高度な観測機器など、最新の科学を駆使して様々な情報が出されています。たくさんの情報の中から、正確に質の高いものをどのように見極めるのか、そして、それをどう読み解き活用し、課題を解決していくのか。そのような資質・能力が問われてくるように思います。



《伸びるヘチマとひまわり》

暑さや大雨、感染症対策だけではなく、社会環境が大きく変化をしていく中、社会を生きるために必要な資質・能力を育むことの重要性が謳われています。子どもたちの資質・能力をどのように捉え、育むのか。教育活動のすべてを通して、多様な人々と共同し、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な未来社会を切り開いていくための資質・能力の育成が求められていると思うのです。

子どもたちには休みに入る前に、どんなことでもよいから何か一つでも「めあて」をもって取り組むとよいことを伝えました。コロナ禍で、暑さの厳しい状況でも元気で有意義に過ごし、元気に笑顔で登校してほしいとの願いを伝えました。休みの期間中、一人ひとりが「めあて」をもち、何か一つでも自分で取り組み充実した生活をしてきたことが、登校してきた子どもたちの元気な姿や笑顔、持ってきている夏休みの課題や作品、自由研究等から伺うことができます。

これからも、子どもたち一人ひとりを大切に、様々な教育活動で支援していくことで資質・能力を育み、新たなことへのチャレンジに繋がっていくことを願っています。

どんな時代でもたくましく生きていく子どもたちの成長を支えていけるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。

今後とも保護者の皆様、地域の皆様の変わらぬご理解とご支援をお願いいたします。